



A I を活用して「粉飾検知モデル」を開発

京都銀行（頭取 安井 幹也）は、A I を活用した自行開発により、企業の粉飾決算の可能性を定量化する粉飾検知モデルの運用を開始しましたのでお知らせいたします。本モデルは当行の保有データを基に、株式会社 N T T データ（代表取締役社長 鈴木 正範）の支援を受け構築したものです。

本モデルは、過去の粉飾事例や大量の財務データ等を A I に学習させてさまざまな個別指標を分析し、その結果を用いて企業の粉飾決算の可能性を定量化するものです。

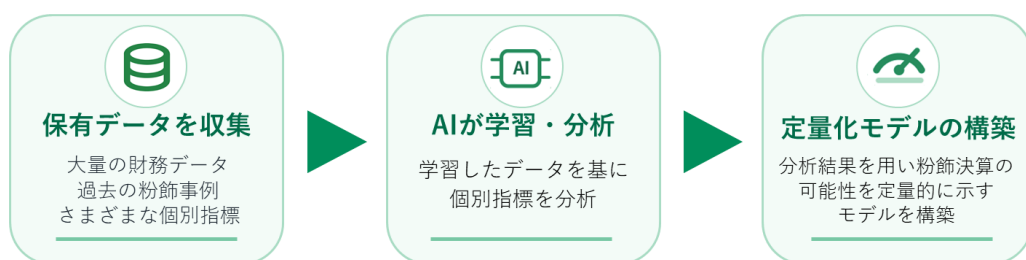
A I での大量データ学習に基づく分析力と当行のノウハウを生かして精度の高い粉飾検知を実現し、与信管理の高度化・効率化を目指します。本取り組みにより、従来手法を補完する新たな粉飾検知を実現するとともに、リスク管理にかかる作業負担を軽減し、捻出された時間でお客さまにより一層質の高いサービスの提供を行ってまいります。

当行では、今後もデータ利活用を一層加速させ、リスク管理の高度化や営業・マーケティングの強化、ビジネス・サービスの創出等に取り組むことでお客さまへのさらなる価値提供に努めていきます。

以 上

<ご参考>

・粉飾検知モデル構築にかかるフローイメージ



・モデルを用いた粉飾検知のイメージ

